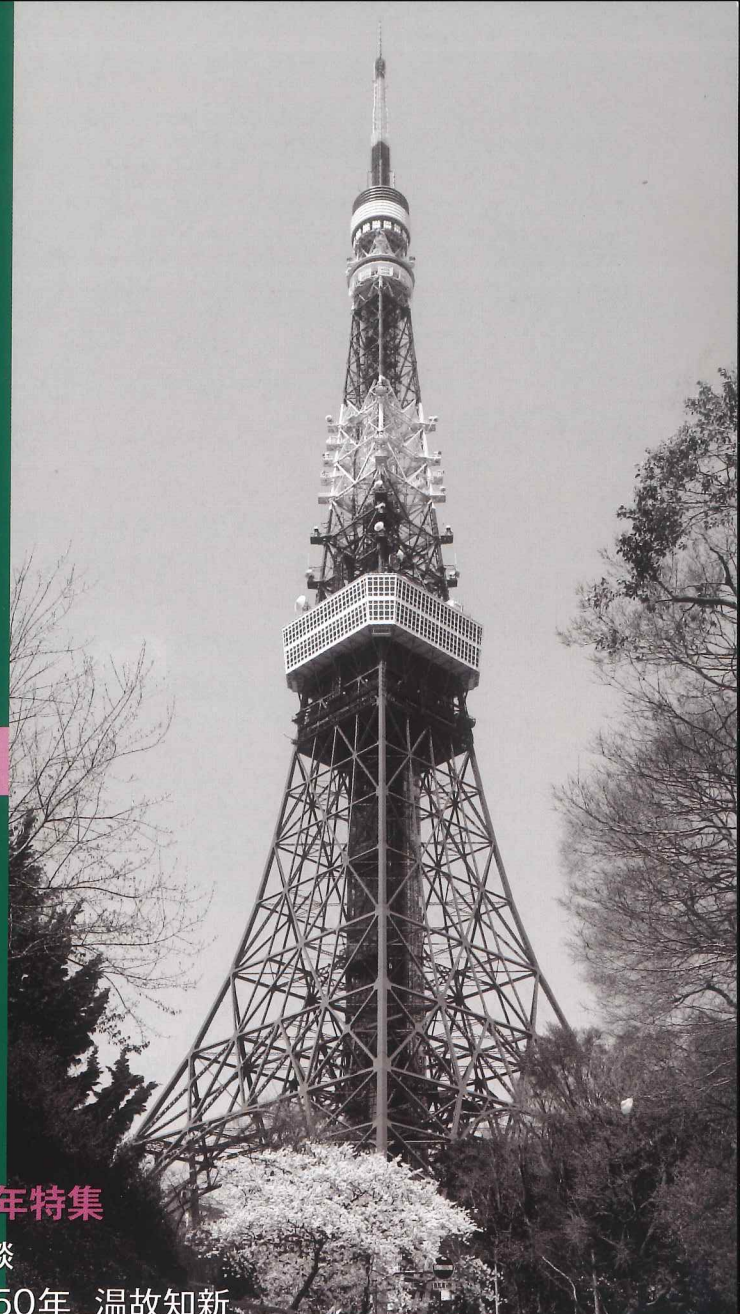


50th
Anniversary

JSSC

JOURNAL OF STEEL STRUCTURES & CONSTRUCTION

2015 SPRING No. 21



50周年特集

記念鼎談

JSSC50年 温故知新

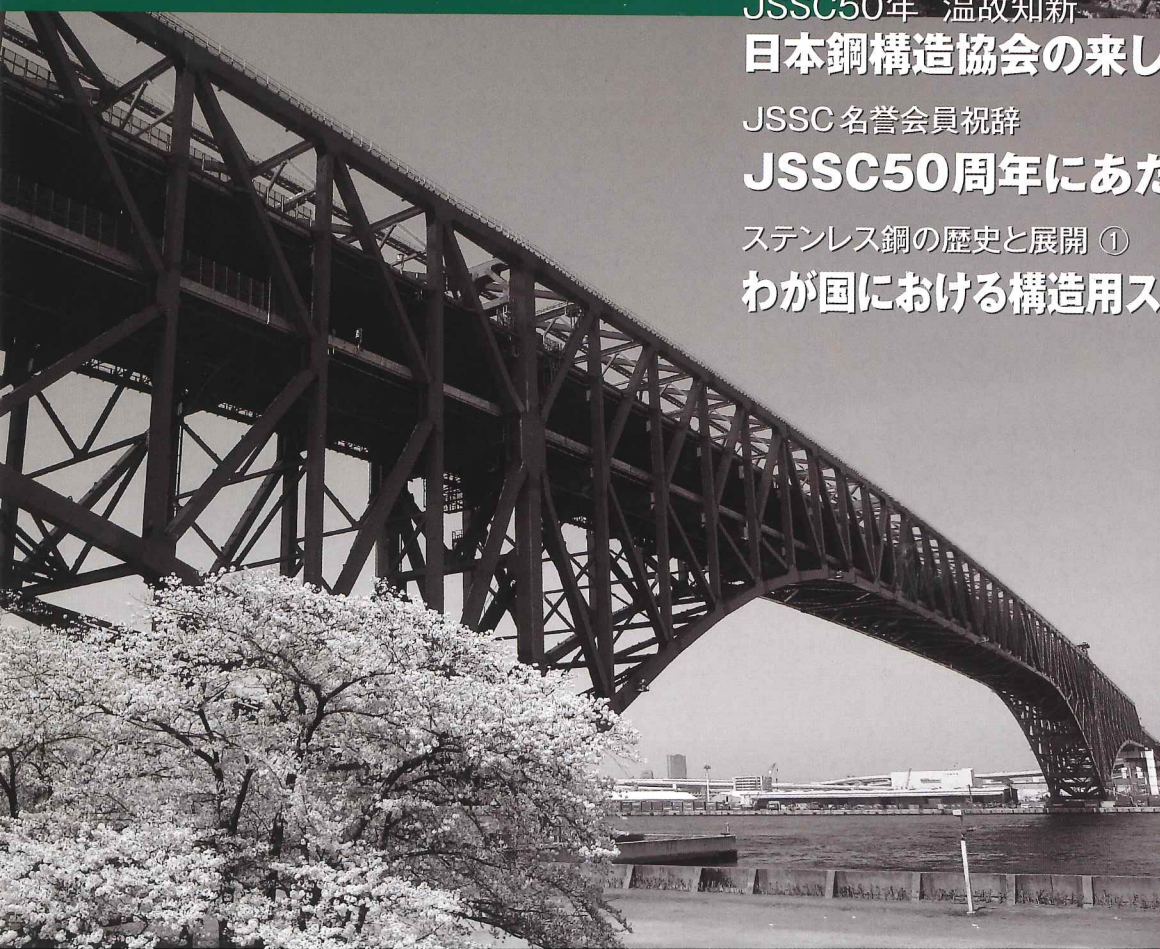
日本鋼構造協会の来し方とこれからを語る

JSSC 名誉会員祝辞

JSSC50周年にあたって私が思うこと

ステンレス鋼の歴史と展開 ①

わが国における構造用ステンレス鋼の研究開発





鋼床版のUリブとJSSCとの 関わりについて

渡辺 昇

JSSCのNo.49 (2003年)の「長老に聞く(14)」の中で、私と三浦章三郎さんとの対談の中に次のような話がでてきます。

鋼床版は、鋼のデッキプレートと鋼の縦リブから成ります。この縦リブには、ドイツでもいろいろなタイプがあり、開き断面リブ、閉じ断面リブでも半円形断面やY形断面やU形断面などがあります。ところで、この閉じ断面リブを工場で作る場合、一橋ごとに製作していたのでは不経済です。私は、本四橋梁に大量の鋼床版を使用する以上、この縦リブ形状を規格化する必要があると考えました。そこでこの問題を日本鋼管の森国夫さんに相談しました

ら、日本鋼構造協会に持ち込んだらどうかということになりました。昭和54年のことです。これが私とJSSCとの関わりのはじめです。その後、協会の中に「鋼床版U形鋼規格化小委員会」が設立され、私が委員長、森国夫さんが幹事になり、委員は本四公団、建設省、首都公団、阪神公団、新日鐵、日本鋼管など総勢13名でした。規格を設けて、Uリブの試作第一号は、日本鋼管ライトスチール工業の熊谷工場でした。その3年後に日鉄建材工業もこのUリブの生産を開始しました。これによって本四公団の鋼床版のUリブの大量生産に間に合いました。

(北海道大学 名誉教授)



祝創立50周年

山田 善一

創立50周年をお祝します。

昭和40年、会から入会申込み書を頂きましたが、会費が年2万円と高いので、そのまましておきましたら、小西一郎先生から、特定の人しか入れない会なので、必ず入れと言われ入会しました。当時はがきが5円の時代です。

入会后、JSSC (最近のものとは形が違いますが) の編集にかなり長く関わりました。

本四架橋もまだ場所が決まらない時代で、開通直後の新幹線にはずいぶんお世話になりました。

発足まもなく、吉識雅夫先生を中心として、構造解析委員会、いわゆるSTANが始まり、他分野の先生(船舶、機械など)との関係ができました。これは協会できなければならないことです。STANは日米セミナー、シンポジウム、講習会などわが国のコンピューターによる構造解析の発

展に大いに寄与しました。昭和45年には「コンピューターによる構造工学講座」として、協会編による講座を、培風館より出版しました。

来日されていたR.W.Clough先生とも知り合い、先生は地震工学でも有名ですので、後々の仕事にも大いに役立ちました。FEMの有名なASAEの論文がありますが、1952年から56年まで、論文が没になっていたそうです。

昭和51年には、IABSEの東京大会が鋼構造協会を中心に行われ、大会後のツアーを任せられ、途中で台風にあい大変な目にあったのも思い出深い出来事です。このツアーで一緒したニュージーランドの方から、免震支承の話聞き、日本へのLRBの導入のもととなりました。

日本鋼構造協会のますますの発展を祈念します。

(京都大学 名誉教授)